

# ゼミ運営の方針と計画 2018年4月

戸堂康之  
早稲田大学政治経済学術院教授

## ゼミの目的

国際経済学・開発経済学・日本経済論などの研究の立案、現地調査、データ収集、データ分析、論文作成、口頭発表



将来の仕事に必要な5つの能力を鍛え、**グローバル・リーダーを育成**

2

## ゼミで鍛える5つの能力

情報収集力

分析力

リーダー  
シップ

創造力

発信力

3

## ゼミの運営方針

ゼミ生による発表

輪読なし・  
ディスカッション重視

フィールドワーク、  
グループワーク  
を強く奨励

定量的実証研究を  
奨励

理論や定性的実証研究を  
排除するわけではない

英語重視

読む文献は英文中心・  
少なくとも学期に1回は  
英語の発表を

4

## 研究テーマの見つけ方

- まず、自分が何に興味があるのかを深く考える
- それだけでは、全くテーマが思いつかないのなら、一般向け経済和書（戸堂『開発経済学入門』の巻末を参考）を読む（3年）
- 興味のある分野について、英語の学術論文を読む
- ある程度やりたいことが見つかったら、データを探す
- 他のゼミ生といろいろディスカッションをして、似た興味のあるゼミ生がいれば、グループでの研究を考えてみる
- グループ研究（論文もグループの共著で提出）をむしろ奨励する

5

## ゼミの内容

- **3年は4限、4年は5限に出席。**  
**ただし、学年間の交流を図るため、月の最後の週は全員が4限5限の両方に出席**
- 基本は学生の発表
  - 自分の研究の進捗（6～7割）  
自分の研究に関する既存文献の紹介（3～4割）
  - 各時限の構成：  
全体での発表40分  
+ 2つのグループに分かれての発表40分
  - 発表順は学期ごとにゼミ生が決め、  
Googleドライブにアップ

6

## ゼミの内容

- 発表の注意点
  - PPTもしくはPDFでスライドを用意し、自分でセットアップ（時間通りに始められるように、**事前にやり方を確認・練習しておく**）
  - スライドはGoogleドライブにアップ
  - **学期に1度は必ず英語で発表すること**
  - 3年生は必ずGoogle Drive「戸堂資料」ファイルの「プレゼンテーションの技術.pdf」を熟読すること。

7

## ゼミの内容

- 学生の発表以外のセミナー
  - 大学院留学生による出張講義
  - 企業、JICA等の方々の特別講義
- 「討論（ディスカッション）」を冬学期に3回行う
  - プレゼミと3年との合同で6限の開催。  
その日は4限のゼミは行わない。

8

## スケジュール

月	2年	3年	4年
4月		テーマを考えよう	
5月		28日 タイ・チェラロンコン大学交流会 文献サーベイしつつ、考えをまとめていく GIS?	
6月		とりあえず何を考えているか発表してみよう ネットワーク分析?	
7月		データを取得して、何らかの分析を試みよう	
夏休み		海外研修?	

9

## スケジュール

月	2年	3年	4年
10月	討論	討論	10月中に中間発表 手法やデータを確定・ ある程度の結果を出す
11月	討論	討論 韓国インゼミ (延世大学)	韓国インゼミ (延世大学)
12月	討論	討論	
1月	早慶インゼミ	下川ゼミとのインゼミ 早慶インゼミ	下川ゼミとのインゼミ 早慶インゼミ <b>18日 卒論締切</b>
2月		<b>2月1日3年次論文締切</b>	

10

## 既存文献の発表

- Google Scholarで検索し、引用数の多い(数十回以上)文献を中心に、1-2本の学術論文、もしくは学術研究をベースとした本・報告書1冊を読む
  - 基本的には日本語の文献は読まない
  - ただし、3年生の夏学期は優れた概説書であれば認める
  - 世界銀行など信頼できる機関が発行する報告書やWorking Paperを含む
- 難解な部分については飛ばしてもよいが、どのようなデータを使って、どのような分析をして、どのような結果が得られ、そこからどのような結論を得たかは理解する。
- 最も重要だと思われる文献についてある程度詳しく、それ以外の文献については最重要論文との差異を中心に紹介する。
- 手法について、よりよい方法を提案する
- 最後に自分のやりたいことと絡めてコメントする

11

## 推薦講義

- 戸堂の「アジア経済論」(春学期・3年以上)・「Asian Economy」(秋学期・3年以上・英語講義)のどちらかは必ず受講すること。両方受講してもかまわない。
- 「政治経済の計量分析」(2年以上)は必ず受講すること。戸堂は秋学期に出講するが、春学期の同名の講義を受講してもかまわない。ただし、戸堂の講義では計量分析ソフトとしてStataおよびRの両方を扱うが、他の講義ではStataのみの場合が多い。
- さらに上級の計量経済学を学びたい者は、星野先生の「計量経済学」、さらに「応用計量経済学」を受講すること。

12

## 推薦講義

- 政経の「実証政治経済学拠点」のメンバーの講義は国際標準であり、受講を勧める。メンバー一覧はこちら。  
<http://www.waseda.jp/prj-cppe/about/members.html>
- 特に以下の講義を強く勧める。
  - 野口先生（医療経済学 [春]）
  - 下川先生（Chinese Economy [秋] , Economics of Resources and Food [春]）
  - 鎮目先生（国際日本経済史 [春]）
  - 久米先生（調査研究デザイン [春]）
  - 栗崎先生（国際政治学 [春]）
  - 内藤先生（国際貿易論）

13

## 韓国でのインゼミ

- 参加ゼミ
  - 東大 澤田康幸ゼミ, 慶応 竹森俊平ゼミ, 一橋 古沢泰司ゼミ, 一橋 石川城太ゼミ, 京大 岩本武和ゼミ, 早稲田 深川由起子ゼミ
  - ソウル国立大, 高麗大学, 延世大学, 梨花女子大
- 11月に韓国で開催
- 各ゼミが1つの論文について英語で発表
- 事前に英語の論文を提出

14

## 国内でのインゼミ（1月）

- 慶應大学とのインゼミ
  - 経済学部山田宏之先生（開発経済学）  
<http://seminar.econ.keio.ac.jp/yamada/>
  - 4年生全員および3年生有志が日本語または英語で発表
  - 事前の論文提出は不要
- 政経内インゼミ
  - 下川哲先生（農業経済学・中国経済）  
<http://ss2951.wixsite.com/shimoagecon/japanese>
  - 4年生全員および3年生有志が英語で発表
  - 事前の論文提出は不要

15